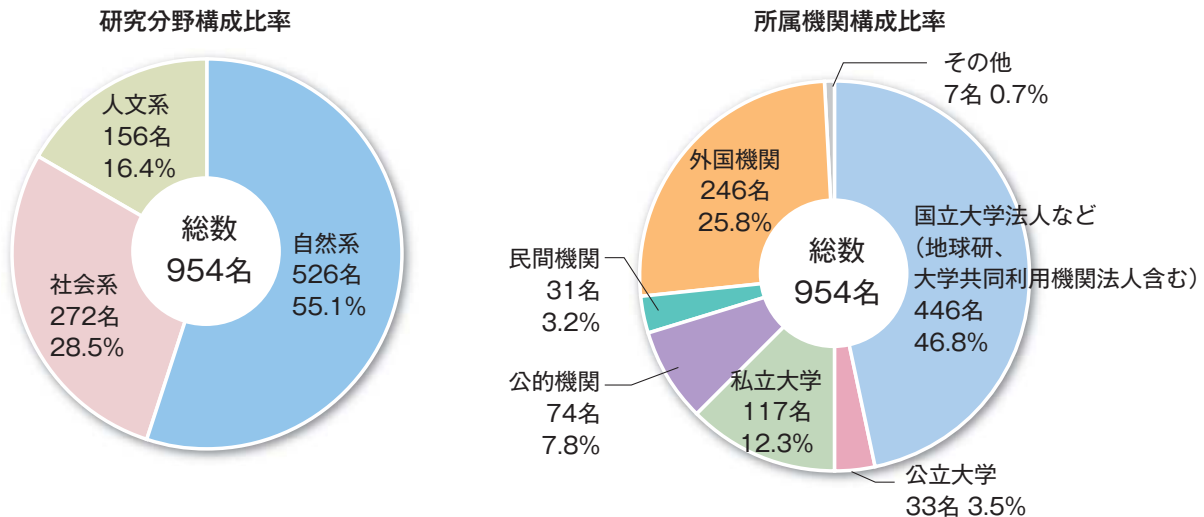


# 共同研究

地球研の研究活動は、所内の研究者やスタッフだけでなく、国内外の多くの研究者の協力を得て実施しています。専門分野や年齢、所属先の異なる研究者が参加し、共同研究を行なっているのが地球研の大きな特色のひとつです。

地球研は、「知のコモンズ」であるべきだと考えています。そのためには、密接な連携とコミュニケーションが欠かせません。意見や考え方の異なる多様な研究者が、寄り集い、議論を重ね、切磋琢磨しながら総合地球環境学の構築に取り組む「開かれた」研究所をめざしています。



2014年3月31日現在

## 国内の連携研究機関など

地球研は、2001年に設立されて以降、全国の研究機関などと人事交流をともなう連携を図りながら共同研究を推進しています。

第Ⅱ期中期目標・中期計画期間においても、より多くの大学や研究機関と積極的に連携を深め、大学共同利用機関としての役割を果たしています。

プロジェクトリーダーを送り出した連携研究機関（法人化前の連携研究機関を含む）

- 1 北海道大学低温科学研究所
- 2 東北大学大学院理学研究科
- 3 東京大学生産技術研究所
- 4 横浜国立大学大学院環境情報研究院
- 5 名古屋大学地球水循環研究センター
- 6 名古屋大学大学院環境学研究科
- 7 京大大学生態学研究センター
- 8 鳥取大学乾燥地研究センター
- 9 琉球大学熱帯生物圏研究センター
- 10 国立民族学博物館



東京大学生産技術研究所と共催した「第5回地球研東京セミナー」(2014年1月)

また、これら10の連携研究機関以外に、全国13の研究機関や行政機関などと学術交流などに関するさまざまな協定を締結することにより、組織横断的な学術研究の推進や相互の研究および教育の充実・発展に取り組んでいます。

#### 学術交流などに関する協定を締結している研究機関（締結順）

- 1 名古屋大学大学院環境学研究科
- 2 九州大学東アジア環境研究機構
- 3 同志社大学
- 4 長崎大学
- 5 京都産業大学
- 6 鳥取環境大学
- 7 宮城大学
- 8 京都大学

#### 学術交流などに関する協定を締結している行政機関など（締結順）

- 1 西条市
- 2 国際commons学会／富士吉田市外二ヶ村恩賜県有財産保護組合
- 3 京都市青少年科学センター
- 4 日本穀物検定協会東京分析センター
- 5 農林水産消費安全技術センター



鳥取環境大学とともに主催した「第13回地球研地域連携セミナー」（2014年2月）



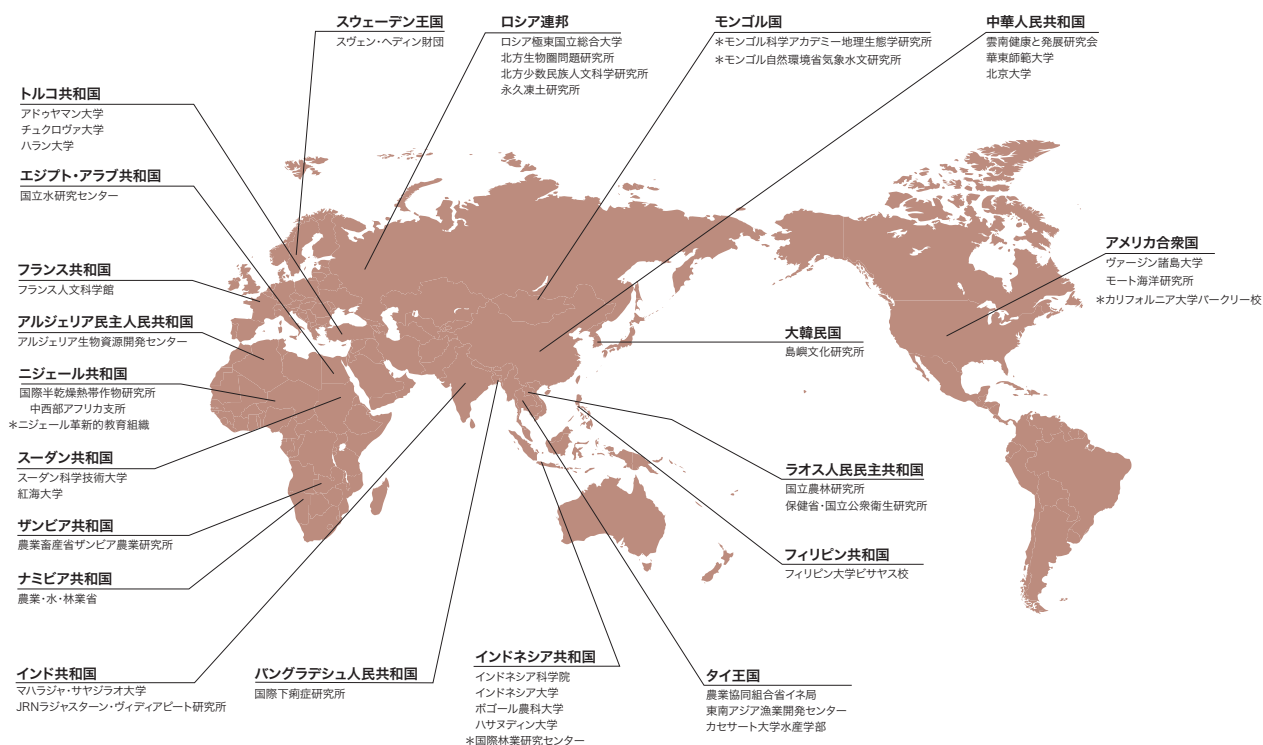
京都市青少年科学センターが実施する「未来のサイエンティスト養成事業 秋冬期講座」に協力し、授業を実施（2014年1月）

## 海外の連携研究機関

地球研では、海外の研究機関・研究所などとの間で積極的に覚書および研究協力協定を締結し、共同研究の推進、研究資料の共有化、人的交流などを進めています。また、海外の研究者との連携をさらに密にするため、招へい外国人研究員として各国から多数の著名な研究者を招いています。2013年度は、アメリカ合衆国、インド、インドネシア、スーダン、ニジェール、モンゴルなどの海外の研究機関と8つの覚書または研究協力協定を締結・更新しました。

### 覚書および研究協力協定の締結（2014年3月31日現在）

\*は2013年度に覚書を新たに締結した研究機関



# 人間文化研究機構のなかの地球研

地球研は、国立大学法人法に基づき、2004年4月1日に設置された大学共同利用機関法人人間文化研究機構（地球研のほか、国立歴史民俗博物館、国文学研究資料館、国立国語研究所、国際日本文化研究センター、国立民族学博物館、以下、機構）の一員となりました。地球研として独自の研究を推進する一方、機構の進める連携研究、研究資源共有化推進事業、地域研究推進事業や、公開講演会・シンポジウムなど、機構主催の諸事業や共同利用活動に積極的にかかわっています。

人文社会系の研究機関が多い機構のなかで、地球研は自然系アプローチを含む統合的な地球環境学の研究を人間文化の問題として位置づけ、重層的かつ多面的な共同研究・共同利用を行なう機関としてその役割を果たしていきます。

## 連携研究「アジアにおける自然と文化の重層的関係の歴史的解明」

「日本およびアジアにおける『人と自然』の相互作用に関する統合的研究：コスモロジー・歴史・文化」

本研究は、地球研、国立国語研究所、国際日本文化研究センターが中核機関となり、全国の国公立大学の教員が共同研究者として参画し、連携して研究を行なうものです。通称、「自然と文化」研究会と呼んでいます。人と自然の多様ななかかわりを考古、歴史、民族（民俗）、環境、思想など多様な観点から解明することをめざしています。

人と自然というかなり漠然としていますが、特に日本や広くアジア地域における集団を対象としています。それぞれの集団が自然とのなかかわりのなかで育んできた、歴史や文化、その体系としてのコスモロジーに注目し研究を推進しています。

人は自然界の資源を生活や生存のために利用するだけでなく、自然を模倣し、あるいは自然を映す独自の表象として、技術、絵画、詩歌、造形物などをとおして自らの文化に取り込んできました。歴史的に多様な形で展開してきた人と自然の相互作用を、多面的なアプローチから明らかにすることが研究の大きなねらいであり、機構の研究機関に共通するテーマであると認識しています。



佐渡・多田祭（2013年10月13日 佐渡研究会での視察のようす）

研究組織として、言語を中心とする自然認識や民族（民俗）分類を扱うグループ、絵画・図像などの造形物や儀礼、民間伝承、民俗知などを中心に扱うグループ、自然の開発や管理をめぐる制度や慣行を扱うグループに分けて、研究を進めています。2010年6月に研究を開始し、2014年度以降も、日本各地やアジア地域を対象とした調査研究を実施していきます。

研究連絡誌として『人と自然』を年に2冊刊行しています。創刊号では特集として「火」を取り上げ、火を主題とする人と自然の多様ななかかわりを独創的な視点から展開しました。つづいて、第2号（特集：音をめぐる人と自然―音とことばの接点）、第3号（特集：虫をめぐる人と自然―虫にこめられた多様な意味）、第4号（特集：天をめぐる人と自然―天と人とのつきあいの歴史）、第5号（特集：色をめぐる人と自然―色の世界の知と技）、第6号（特集：花をめぐる人と自然―人はなぜ花を愛でるのか）、第7号（特集：香をめぐる人と自然―感覚を刺激する香の魅力）を刊行しました。2014年度に刊行予定の第8号では、「風」をテーマに幅広い視点から取り上げる予定です。



『人と自然』第6号



## 中国環境問題研究拠点

# 「グローバル化する中国環境問題と東アジア成熟社会シナリオの模索」



中国甘肃省敦煌市

中国環境問題研究拠点は、現代中国研究のレベルアップや学術研究機関間のネットワークの形成、次世代の研究者養成を目的として機構が実施する地域研究推進事業「現代中国地域研究」の一環として、全国の大学や研究所に設置された研究組織のひとつです。2007～2011年度の第Ⅰ期5年では、地球研のほかに早稲田大学、慶應義塾大学、東京大学、東洋文庫および京都大学に拠点が設置されました。2012年度から始まった第Ⅱ期では、愛知大学、法政大学、神戸大学が加わりました。

本拠点では、「グローバル化する中国環境問題と東アジア成熟社会シナリオの模索」を研究課題としています。中国を中心とした周辺各国を含む東アジア圏を視野に入れ、今後予想される少子高齢化を考慮し、住民の生活基盤の向上と資源開発・環境保全との両立のあり方を検討しています。

地球研では、中国を対象とした研究プロジェクトを数多く実施してきましたが、現在はすべてが終了しています。このため、本拠点では新たな研究シーズの発掘、協力関係の構築に努めています。2013年7月には、華東師範大学、復旦大学などの研究者を招き、国際シンポジウム「東アジアの都市化と福祉・環境問題」を開催しました。また、2011年度からは中国の大学と共同で「地球環境学講座」を開講しており、2013年度は、北京大学にて学部・大学院生を対象に開催しました。

さらに、地球研の活動だけでなく、中国環境問題にかかわるさまざまな話題を取り上げるニュースレター『天地人』を定期的に発行しています。また、地球研の研究成果を中心に、書籍や研究成果の報告書シリーズを発刊しており、2013年度には RIHN-China Study Series 第3巻『湖の現状と未来可能性』を発刊しました。



2013年7月に地球研にて開催した国際シンポジウムのようす



2014年3月に北京大学にて開催した「地球環境学講座」のようす



『天地人』第22号

# 研究成果の発信

地球研では、研究成果を広く社会に還元するため、一般の方や研究者を対象にしたシンポジウム、フォーラム、セミナーなどのイベントを開催しています。また、総合地球環境学に関するさまざまな刊物を積極的に出版しています。



第8回地球研国際シンポジウム

## 地球研国際シンポジウム

地球研の研究成果を世界に発信することを目的として、国内外の研究者コミュニティを対象に年に1回開催しています。その年度に終了する研究プロジェクトの研究発表を中心に、最新の研究活動や海外諸国の地球環境研究の現状を紹介しています。

	テーマ	開催日	場所
第8回	環境変化とリスク	2013年 10月24日-26日	地球研講演室
第9回	明日のメガシティ——都市と地球環境の未来可能性	2014年 6月25日-27日	地球研講演室



第12回地球研フォーラム

## 地球研フォーラム

地球研の理念や研究成果に基づいて、地球環境問題について幅広い提起やディスカッションを行なうことを目的に、年に1回開催しています。2004年度からはその成果を「地球研叢書」として刊行しています。

	テーマ	開催日	場所
第12回	“共に創る”地球環境研究	2013年6月29日	国立京都国際会館
第13回	共に創るために何が必要か——地球環境研究をデザインする（仮題）	2014年7月12日	国立京都国際会館



第54回地球研市民セミナー

## 地球研市民セミナー

地球研の研究成果や地球環境問題の動向をわかりやすく一般の方に紹介することを目的に、地球研または京都市内の会場において定期的に開催しています。専門用語や難しい概念を使用せず、環境の大切さを伝えるよう努めています。

	テーマ	開催日	講演者
第50回	持続可能な地域づくりを支える科学——地域環境知プロジェクトがめざすもの	2013年5月24日	佐藤 哲（地球研教授）
第51回	農山村の人と暮らし——獣害のようすとその対策	2013年6月21日	矢尾田清幸（地球研プロジェクト研究員）
第52回	水俣から MINAMATA へ——加害者は誰か	2013年9月10日	ジュディ・デ・シルバ（グラスシーナロウス居留地事務所行政官（カナダ）） 花田 昌宣（熊本学園大学水俣学術センター長）
第53回	〈アラブの春〉——地球環境から考える	2013年9月20日	鷹木 恵子（桜美林大学教授） 縄田 浩志（地球研准教授）
第54回	沿岸環境と魚の話	2013年10月18日	石川 智士（地球研准教授）
第55回	地球温暖化リスクと人類の選択	2013年12月11日	江守 正多（国立環境研究所地球環境研究センター気候変動リスク評価研究室長）
第56回	猟師さんに聞く——京都の山と動物のこと	2014年2月21日	千松 信也（猟師）
第57回	マータイさんに聞いてみよう「平和」と「環境」のこと	2014年2月23日	ワンジラ・マータイ（ワンガリ・マータイ平和と環境学研究所理事）



第57回地球研市民セミナー



### 地球研地域連携セミナー

世界や日本の各地域で共通する地球環境問題の根底を探り、解決のための方法を考えていくことを目的に、地元の大学や研究機関などと連携してセミナーを開催しています。

	テーマ	開催日	場所
第13回	地球の未来、地域の知力 ——環境問題の解決に向けて	2014年2月11日	鳥取県鳥取市

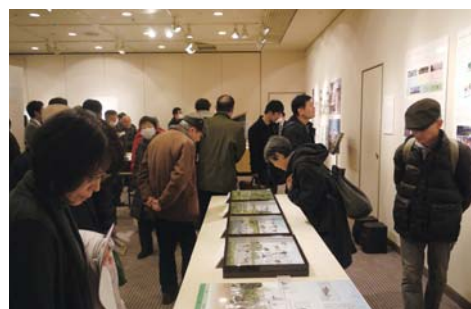


第13回地球研地域連携セミナー

### 地球研東京セミナー

地球研の研究成果と今後のさらなる進展について、国内の研究者コミュニティや一般の方に理解と協力を呼びかけていくため、東京でのセミナーを開催しています。

	テーマ	開催日	場所
第5回	都市は地球の友達か!? ——地球環境とメガシティ の過去・現在・未来	2014年1月24日	有楽町朝日ホール



第5回地球研東京セミナー

### 地球研オープンハウス

2011年度から、広く地域の方々との交流を深めるために、地球研の施設や研究内容を紹介するオープンハウスを開催しています。各プロジェクト研究室でのイベント、キッズセミナーやクイズラリー、実験室見学ツアーなど、地球研を身近に感じていただくための企画を実施しています。

	開催日	場所
2013年度 地球研オープンハウス	2013年8月2日	地球研
2014年度 地球研オープンハウス	2014年8月1日	地球研



2013年度地球研オープンハウス プロジェクト研究室でのイベントのようす



2013年度地球研オープンハウス 実験室見学ツアーのようす



第4回地球研キッズセミナー



第5回KYOTO地球環境の殿堂 表彰式にてあいさつを述べる宮脇昭氏

## KYOTO地球環境の殿堂

「京都議定書」誕生の地である京都の名のもとに、世界で地球環境の保全に多大な貢献をした実務家、研究者などの顕彰を行います。その功績を永く後世に引き継ぎ、京都から世界に向けて広く発信することにより、地球環境問題の解決に向けたあらゆる国、地域、人々の意志の共有と取り組みの推進に資することを目的としています。本顕彰は、「KYOTO地球環境の殿堂」運営協議会（京都府・京都市・京都商工会議所・環境省・国立京都国際会館・地球研）が中心となり、環境分野の専門家、学識者、活動家などで構成する選考委員会で選考されます。

	殿堂入り者	職 位	業 績
第 5 回	宮脇 昭氏	公益財団法人地球環境戦略研究機関国際生態学センター長	土地に在来種の樹木を密集させて植え込み、植物のもつ競争力を生かしながら緑を増やす植樹方法「宮脇方式」を提唱



第5回京都環境文化学術フォーラム スペシャルセッション「山を守り、青い海（水）を育む…世代を超えて。ーグローバルコモンズを目指してー」

## 京都環境文化学術フォーラム

地球温暖化をはじめとする地球環境問題を解決するため、京都府、京都市、京都大学、京都府立大学などとともに、環境・経済・文化などの分野にわたる国際的な学術会議を2009年度から開催しています。「京都地球環境の日（2月16日）」の記念行事と位置づけ、「KYOTO地球環境の殿堂」表彰式と同時に開催しています。



第5回日文研・地球研合同シンポジウム

## 日文研・地球研合同シンポジウム

人間文化研究機構における新しい人間文化研究の可能性として、日本文化の研究が地球環境問題にいかなる貢献をすることができるかについて提案することを目的としています。

	テーマ	開催日	開催場所
第 5 回	文化・環境は誰のもの？	2012年9月14日	日文研講堂

## 地球研セミナー

地球研に滞在中の招へい外国人研究員が主に講師となって、地球環境問題に関する最新の話題と研究動向を共有し、広い視座から地球環境学をとらえようとする公開セミナーです。

## 談話会セミナー

原則月2回、昼休憩を利用して行なうランチセミナーです。地球研の若手研究者が中心となって、各自の研究背景をふまえた話題を提供し、研究者相互の理解と交流を深めています。



談話会セミナー

## 刊行物

### 地球研叢書

地球研の研究成果を学問的にわかりやすく紹介する出版物です。

タイトル	著者・編者	出版社	出版年月
食と農のサバイバル戦略	嘉田 良平 著	昭和堂	2014年3月



### 地球研和文学術叢書

地球研の研究成果を研究者に向けて発信する出版物です。

タイトル	著者・編者	出版社	出版年月
環境人間学と地域 インダス 南アジア基層 世界を探る	長田 俊樹 編著	京都大学 学術出版会	2013年10月
環境人間学と地域 モンゴル 草原生態系ネッ トワークの崩壊と再生	藤田 昇、 加藤 聡史、 草野 栄一、 幸田 良介 編著	京都大学 学術出版会	2013年10月



### 地球研英文叢書

地球研の研究成果を国際社会に向け広く発信する、英文での出版物です。

タイトル	著者・編者	出版社	出版年月
The Dilemma of Boundaries	谷口 真人、 白岩 孝行 編	Springer	2012年5月



### 地球研ニュース (Humanity & Nature Newsletter)

地球研として何を考えているのか、またどのような所員がいて、いかなる研究活動をしているかなどの最新情報を、研究者コミュニティに向けて発信するもので、隔月で刊行しています。特に、地球研にかかわっている国内外の研究者を対象に、コミュニケーションの場のひとつとして機能することをめざしています。



### その他

地球研では上記のほかにも多様な刊行物を出版しています。たとえば、研究プロジェクトで取り入れている多様な地球環境学の研究手法を、大学生や自治体、研究者にわかりやすく紹介する『地球環境学マニュアル1 共同研究のすすめ』、『地球環境学マニュアル2 はかる・みせる・読みとく』や、さまざまな分野にまたがる研究プロジェクトの成果を事典という形でまとめた『地球環境学事典』があります。

